

クラブ活動で活用する

楽しい活動の中で、自発的、自主的な態度を育てる手掛かりとして

本場面におけるポイント

- **クラブ活動における個性の伸長を図る**
クラブ活動への興味や期待を大切にしながら、協力して活動する意欲を高める手掛かりとして生かす。
- **クラブ活動において自発的・自主的な態度を育てる**
各クラブの特色を生かした活動の内容を深めるために生かす。
- **クラブ活動の次年度への意欲を高める**
次年度に向けた活動への意欲を高めるための資料として生かす。



個性の伸長を図りながら協力して活動する意欲を高める事例（第4学年）

4年生になった子どもたちは、初めてのクラブ活動をとて楽しみにしている。学級でクラブの紹介をして希望調査をするときに、「心のノート」を活用することで、興味・関心を追究しながら、自己を生かすことができる。

【学級での事前指導の中で活用】

- ① 自分が好きなことや興味があることを書く。(P.32)
- ② 紹介し合う。
- ③ クラブの紹介を聞いて、自分が入りたいクラブを選ぶ。
- ④ 迷っているときには、子どもたち同士でアドバイスをする。



3・4年用P.32～33



ヘルシーおやつクラブの活動

1学期最後のクラブ活動の時間には、1学期の振り返りを行うようにするとよい。その際クラブ活動1年目の4年生には、特にクラブ活動の楽しさや自分の活動のよさを感じることができるようになるため、内容だけでなく、自分の活動の様子や活動をして思ったことなども振り返って紹介できるようにしたい。

【1学期最後のクラブ活動の時間に活用】

- ① クラブ活動の中で楽しかったことや協力したこと、工夫したこと、思ったことなどを考える。4年生は「心のノート」ファイルを持って行き、P.33に書く。
- ② 4年生は書いたことを基に発表する。
- ③ 5・6年生は、運営面や計画、実際の活動について考えたことを発表する。
- ④ 2学期に生かしたいことを考える。

● クラブ活動の時間の中での活用事例（5・6年）

学校や地域の特色を生かした様々なクラブがあるので、そのクラブの特性をより生かすことができる活動にするために、「心のノート」を活用することができる。

【第1回目のクラブ活動の時間とその後継続して活用】

例) 生け花クラブ・茶道クラブ・さわやかスポーツクラブでの活用 (P.40～41)

クラブによっては、外部からの講師を招いて活動したり、チームワークを発揮して活動したりすることが多い。子どもたちにとっては、「あいさつ」「礼儀」「エチケット」を学ぶよい機会にもなるので、心のノートを活用することで、地域の方とのふれあいや、4・5・6年生の交流がよりよいものになるようにしたい。



5・6年用P.40～41

例) 自然科学クラブでの活用 (P.70～71)

校区内の自然を巡る内容のクラブでは、このページを活用して事前に目的意識をもつことで、協調性や責任感、規範意識などについて考えながら活動することができるようにする。また活動する中で、普段は、何気なく見たり遊んだりしている場所が、とてもかけがえのない場所であることを再認識したり、命の大切さに気付いたりすることにもつながるように、継続して書くようにするとよい。



5・6年用P.70～71

● 来年への意欲を高める場としての活用事例（5年）

5年生に、来年度は最上級生となることを意識できるようにするため「心のノート」を活用するとよい。中心となってクラブ活動を進めてくれた6年生の姿をしっかりとイメージすることで、来年1年間のクラブ活動でリーダーシップを発揮することができるような態度を育てたい。

【1年間を振り返る活動の中で活用】

- ① クラブ活動での6年生の姿を思い出す。
- ② 楽しい活動と、やるべき仕事をがんばっていた6年生の姿に気付く。
- ③ 6年生の姿と自分の活動を振り返り、来年度への思いを書く。

新年度、もう一度「心のノート」ファイルを開き、このページを見直すことで、さらに自覚を促し、意欲を高めることができる。

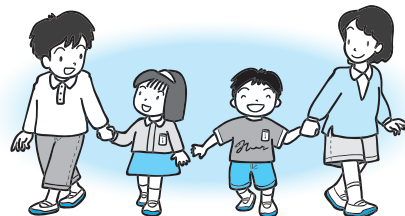


5・6年用P.22～23

児童会活動で活用する

本場面におけるポイント

- **高学年としての自覚を促す**
自発的・自治的な活動を通して、学校生活の充実と向上を目指すために生かす。
- **集会活動を事前・事後指導で交流を深める**
異学年の子どもたちの交流を通して、望ましい人間関係を築くために生かす。



● 高学年としてよりよい校風をつくる学校生活の充実と向上を目指す事例（第6学年）

最高学年の6年生にとっては、4月は学校のリーダーとしての意欲が高まる時である。自発的・自治的な活動を促すために、学級で「心のノート」を使って学習することで、学校の伝統や先輩たちが残してくれたものに、気付かせることができる。

【学級の朝の会・帰りの会で活用】

- ① これまでの学校生活や昨年度の6年生を見てきて思うこと、または私たちの学校のよさを考え、思うことを書く。
- ② 実際に自分にできそうなことや、やってみたいことを書く。
- ③ 発表し合い、今後の活動の意欲を高める。



5・6年用P.102～103

学校のよさや伝統を再確認することで、愛校心や高学年としての自覚が生まれる。さらに、活動していく中で感じたことを、ファイルに綴じた「心のノート」に継続的に書き込んでいくことも心の成長の足跡として有効であり、「役割・責任」の大切さを実感する場となる。

● 委員会活動への自発的・自治的な活動の意欲を高める事例（第5・6学年）

最初の委員会活動のときに、「自分たちの学校のために!」と意欲をもって集合した子どもたちに、「この委員会で自分たちにできることは何か」を考えさせたい。5・6年の子どもたちに、自分たちでできることを考える場を与えることで、自主的な活動へと促すことができた。

【1回目の委員会活動の時間に活用】

- ① 昨年度の活動を振り返りながら、今年度の活動計画を立てるときに、他に「私たちにできることはないか」を考える。
- ② できそうなことを書く。
- ③ その中から、1年間の活動計画に入れたい内容を決めていく。



5・6年用P.58～59

子どもたちが自分たちにできることを考え、計画して、協力しながら実践する中で、楽しみながら学校生活の充実と向上に役立つ活動に取り組むことができる。学期末ごとなどに、心のノートファイルをもって集合し、委員会活動の振り返りを行うこともできる。

目的に合わせて「意欲付け」や「つなぐ手掛かり」として

● 朝の集会活動をつなぎながら異学年の交流を深める事例（第3学年）

全校児童朝会では、事前・事後指導を充実させたり、次の活動に生かすようにすることが大切である。例えば修学旅行で平和について学んだ6年生が「構成詩：平和への道」を発表する場合、3年生の事前指導でその内容を確認しておいたり、事後指導で発表の内容を振り返り、自分と重ねて考え、これからの自分のことを考えたりすることが考えられる。また、このことを生かして3年生としての集会活動に生かすなど、つなぐこともできる。

【事前指導】

- ① 学級で6年生の発表の内容を確認し合う。



【6年生の発表を見た後の事後指導】

- ② 「心のノート」を手掛かりに、自分の心を見つめ、みんなが仲よくなるために大切なことを考える。



【3年生が担当する集会につなぐ】

- ③ 今月の生活目標「友達となかよくしよう」の発表の内容を考える。



3・4年用P.40～41

● 「6年生を送る会」の事前・事後指導で望ましい人間関係を築く事例（第1学年）

1年生の場合、1年間を振り返ると、周りの人たちにいろいろな場面で助けてもらったことに気付く。「6年生を送る会」の前に、6年生に向けて「ありがとう」と言いたいことを書かせることで、子どもたちは、いろいろな場面で6年生にお世話になったことを思い出すことができる。

【準備の時間を使って事前指導】

- ① 6年生へ「ありがとう」と言いたいことを「心のノート」に書く。



【「6年生を送る会」別れを実感した後の事後指導】

- ② 「心のノート」を見ながら、掲示用の葉っぱの形の「ありがとうカード」にメッセージを書く。
- ③ その葉っぱで大きな木を作り、6年生への卒業のプレゼントにする。



1・2年用P.50～51

6年生は、P.46～47などを使い、誰に対しても思いやりの心をもって接することを継続して考えられるような場をつくっておくとよい。このような工夫をすると、高学年の子どもたちが「低学年の子どもたちを思いやる心」を、低学年の子どもたちが「高学年にあこがれる心」をもつことができるようになる。

葉っぱで作った6年生へのプレゼント

